

外為短観レビュー ドル/円のレンジブレイクに個人投資家は

◆ドル/円が大幅に上昇

ドル/円相場は、8月後半に上昇を始め、9月19日には6年ぶりに109円台に乗せた。5月以降、概ね101-103円の狭いレンジでもみ合いを続けながら溜め込んだ動意のマグマがここに来て一気に噴出した格好だ。レンジブレイクのきっかけは、8月20に公表されたFOMC議事録であり、「多くのメンバーが雇用が増えた事で利上げが早まる可能性がある」と判断していた事が明らかとなった事にある。これを受けて、米長期金利とドルが大きく上昇。その後もほぼ右肩上がりでの上昇を続け、9月5日の東京市場では、決済が集中しやすい5・10日の仲値公示に向けて仕掛け的なドル買いが入ると、それまでの年初来高値である105.440円を上抜けた。そうして迎えた9月16-17日のFOMCでは、声明文こそタカ派化しなかった

ものの、政策金利見通しを前回から上方修正し(2015年末:1.125%→1.375%、2016年末:2.50%→2.875%)、新たに17年末には3.75%に達する見通しを示した。これは、米FRBが早期に利上げに踏み切るとともに、想定以上の早いペースで追加利上げを行う可能性がある事を市場に想起させる結果となり、ドルの上昇を加速させる事になった。

◆個人はドル売りに動く

こうしてドル/円相場が上方向への動意を強める中で、本邦個人投資家は当初、ドル売り・円買いに動いた。過去3カ月のレンジをブレイクした8月下旬から、年初来高値を更新した9月初旬において、特にそうした動きが顕著に見られた。過去の動向に照らせば、彼らは円売り・外貨買いの



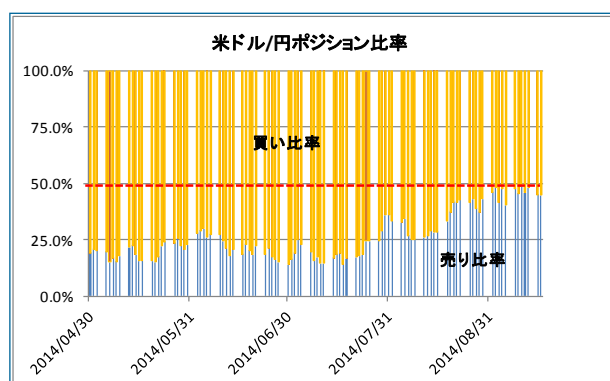
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

ポジションを持つ事が多かっただけに、やや意外感もあるが、彼らの得意技とされる「逆張り」の発想からすれば、当然の行動だったのかもしれない。

◆ドル売り比率とドル売り残高

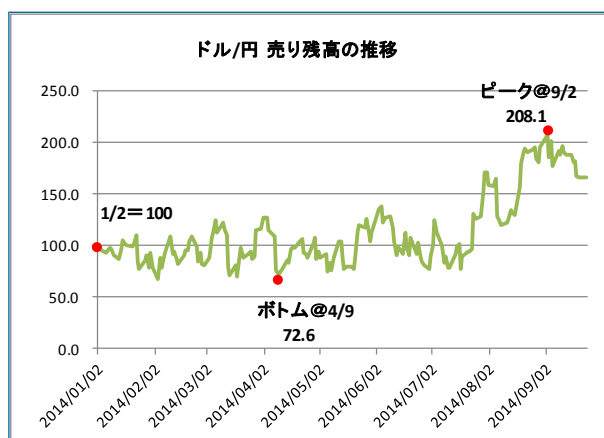
本邦個人投資家は、相場の下落局面で買いを入れる、いわゆる「逆張り」投資を好む傾向があるとされる。この傾向は、今年5月や7月にドル/円が101円付近まで下落した際に、買い比率が80%を超えて上昇(売り比率が10%台に低下)し



た事からも見て取れる。

上記グラフは、外為どっとコムにおける顧客のポジション動向の推移であるが、ドル/円が上昇を始めた8月後半以降に売り比率が50%付近まで上昇した。つまり、相場の上昇局面でも「逆張り」のドル売りに動いた個人投資家が増加した事になる。もちろん、売り比率の上昇には、買い比

率の低下という側面もあるため、相場の上昇に合わせて利益確定売りが多く出たという事も言えなくはない。ただ、今回の局面では、実際にドルの売り持ちを増やす動きが見られた。下記グラフは、今年1月2日時点の売り残高を100としてその後の推移を表したものであるが、9月2日には、ドル売りが、年初の2倍を超える規模に膨ら



んだ事がわかる。

9月2日といえば、ドル/円が8カ月ぶりに105円台を示現した日であり、この日にドル売りポジションがピークに達したと言う事は、この水準をレンジの上限と見ていた個人投資家が多かったという事だろう。その後、ドル/円相場が右肩上がりの上昇を演じたのは前述の通りだが、個人投資家のドル売りポジションは小幅ながら減少に転じている。つまり、それまでの年初来高値(105.440円)を更新して以降は、ドル売りに動く

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

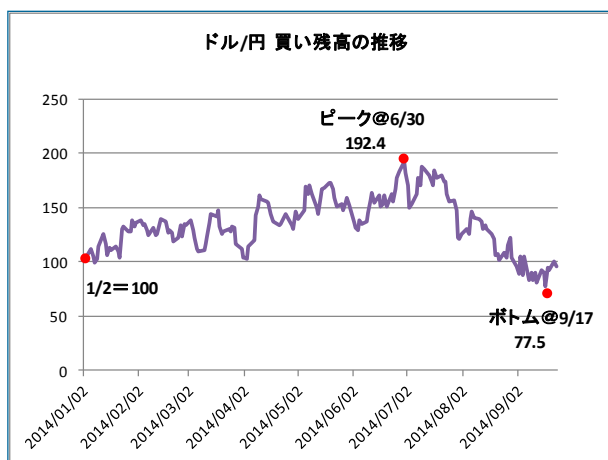
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

個人投資家が減少した事が示されている。

◆ドル買い残高

一方で、ドル買い残高の推移(売り残高と同じく、2014年1月2日時点の残高を100として指数化)を見ると、ドル/円相場が6年ぶりの高値(9月19日、109.460円)を示現する直前の17日にボトムを付けて、その後は増加に転じている。個人投資家の「逆張り」的なドル売りは2日の105円乗せを機に減退したが、「利益確定」のドル売り(ロングポジションのクローズ)は108円台に乗せた17日まで続いたと見られる。18日以後に買い残が増加している点を鑑みると、利益確定のドル売りは既に一巡したと考えられ、むしろ「順張り」的なドル買い気運が高まり始めている

の動きがドル/円相場の上昇を後押しする事になるかもしれない。本邦個人投資家のドル買い残高は、ピーク時(6月30日192.4)の1/2程度(9月23日96.1)に留まっており、「ドル買い余力」という点においては決して小さくない。少なくとも、ドル/円相場の調整局面では個人投資家の買いニーズがある程度下値を支える公算が大きく、調整の速度を抑える効果があると考えられる。(了)



ようにも見える。

◆個人のドル売り一巡、ドル高を後押しへ

「逆張り」的なドル売りに続き、「利益確定」のドル売りも一巡したとなれば、今後は個人投資家

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com